



市民モデル  
左 外山 瑞貴くん  
中央 桃澤 隼人くん

## 地域のきずなが深まる場所 地域発！とよたの子ども食堂

子どもの居場所を提供し、食事を通じて子どもを支える「子ども食堂」の輪が今、広がろうとしています。子ども食堂は、地域のボランティアが主体となり、子どもたちに呼びかけて開催。豊田市の子ども食堂は、「子どもたちを地域で後押ししたい」という想いを持った様々な市民が支えています。

### 食堂？ 遊び場？ 塾？

#### 多様な、経験・体験のあふれる地域の居場所

子ども食堂は、無料または安価で食事や温かな団らんを提供する子どもの居場所で、現在市内に7か所あります。月に1回程度開かれ、食を通じて地域の人たちと交流しながら安心して過ごせる場となっています。「食堂」といっても、食事を提供するのみでなく、調理を一緒に楽しんだり、運動、遊び、勉強などを一緒にしたりすることもあります。子どもたちが地域の幅広い世代の人と交流することは、豊かな人間性を育む機会ともなっています。各子ども食堂の創意工夫とアイデアで、いろいろなスタイルの活動が展開されています。

#### 地域の大学生が、大活躍！

地域住民の支えで運営されている子ども食堂ですが、学生も活躍しています。子どもにとって年齢の近い学生ボランティアの存在が、「こんな大人になりたいな」と将来の希望を描くことに繋がっています。



## 多世代で交流する喜び

末野原地区の「ゆるっとほっとかふえ」の代表をしている今西モト子さんに話を聞きました。

### 私が子ども食堂を始めたきっかけ

主任児童委員の仕事をする中、1人で留守番をしている子どもと出会い、食事はどうしているのか、



ゆるっとほっとかふえの代表 今西モト子さん

お腹を空かせていないかということが気になっていました。子どもはSOSを安易に発信できない。地域の繋がりの中から、子どもの困りごとをキャッチしたいと思ったのがきっかけです。地域のおばちゃんとして、見えにくい子どもたちの現実に寄り添えたらと思います。「一緒に作り一緒に食べよう」「一緒に宿題しよう」「一緒に遊ぼう」と声をかけています。

### 多世代が気軽に集える居場所

子ども食堂は、地域で暮らす多世代が交流し、地域でのつながりの輪の広がりにより、いろいろな人が集まり地域が元気になっていく、そんな場所です。子どもを核にした新たな地域の繋がりが生まれ始めています。地域で支えられた子どもたちは地域が大好きになり、地域を元気にする原動力になるのではないのでしょうか。誰もが利用できる子ども食堂に、自然と子どもや大人が集まってきています。1人でする食事が寂しいのは、子どもだけではないと思います。忙しい社会だからこそ、子どもを含む温かいコミュニティが地域に広がっていくといいなと思います。

## 地域に広がり！ 子ども食堂

### 様々な運営主体

子ども食堂は、地域のボランティアや喫茶店、社会福祉法人、NPOなど、様々な運営主体によって実施されています。

### 地域の温かい支援

子ども食堂は、地元の企業や農家、奉仕活動団体からの出資や食材、衛生用品の提供など、地域の人たちの温かい支援に支えられ、継続的に運営されています。

### 「なにか協力したい」そんな気持ちを大募集

資金協力やボランティアなど、協力の形は様々。地域の住民や学生が、ボランティアとして子ども食

堂に参加しています。興味のある人は気軽に問い合わせてください。

### サポート体制

福祉総合相談課では、社会福祉協議会と共に、子ども食堂の立上げや、運営を継続するための相談支援を行っています。また、子ども食堂に参加する子どもについて、支援の必要な世帯があれば、家庭全体への支援を行います。



### とよた子ども食堂ネットワーク交流会

子ども食堂に興味がある仲間同士、横の繋がりを持てるよう定期的に子ども食堂交流会を実施しています。関心のある人は気軽に参加ください。

とき／3月15日(金)午後3時～4時30分 ところ／ほがらか若草店(若草町)

定員／先着50人 参加費／500円(飲み物付き) 申込み／3月5日(火)午前8時30分から電話か直接福祉総合相談課(☎34・6791)